

2012年9月期 決算説明会資料

2012年11月20日(東京)

2012年11月22日(大阪)

証券コード 7760

IMV CORPORATION

copyright©IMV CORPORATION 2012 All right reserved



■ 当資料について



○ 用語の説明

DSS……振動シミュレーションシステム(振動試験装置、複合環境試験装置)

MES……メジャリングシステム(振動計測装置、振動監視装置、地震監視装置)

TSS……テスト&ソリューションサービス(受託試験事業、ソリューション事業)

○ 免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

■ 決算概要と主要アクション



決算概要

- 売上高・受注高：
 - ・受託試験の増加や振動シミュレーションシステムの大型案件の引き合いが伸びたこと等により、受注高は前期比14.9%増の6,452百万円となり、売上高は前期比25.8%増の5,900百万円となりました。
- 当期純利益：
 - ・受託試験の増収により安定した収益性が確保され 当期純利益は前期比97.2%増の360百万円となりました。

主要アクション

- 新製品の開発・販売：
 - ・省エネ型振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」シリーズのラインアップを順調に拡大し、売上も伸ばしました。
 - ・次世代ポータブル振動計スマートバイブロを2012年3月にリリースいたしました。
- 海外展開の強化：
 - ・東南アジア地域における、振動シミュレーションシステムの販売、メンテナンスサービス及び振動受託試験の提供を目的としてタイのチョンブリーに100%子会社であるIMV (THAILAND) CO.,LTDを設立いたしました。
 - ・欧州地域における振動シミュレーションシステムの拡販と研究開発に関する連携機関との関係強化を目的とし、ロンドン郊外のレッチワースに海外駐在員事務所IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTREを設置いたしました。

今後の展開

- 海外事業展開を加速するため、海外地域における販売・サービス体制の強化や海外販売に向けたDSS製品の開発等の取り組みを一層強化いたします。また、MES新製品の投入等を進め、さらなる売上拡大と収益性の向上を図ります。

■ 決算概要(連結)



(単位:百万円)

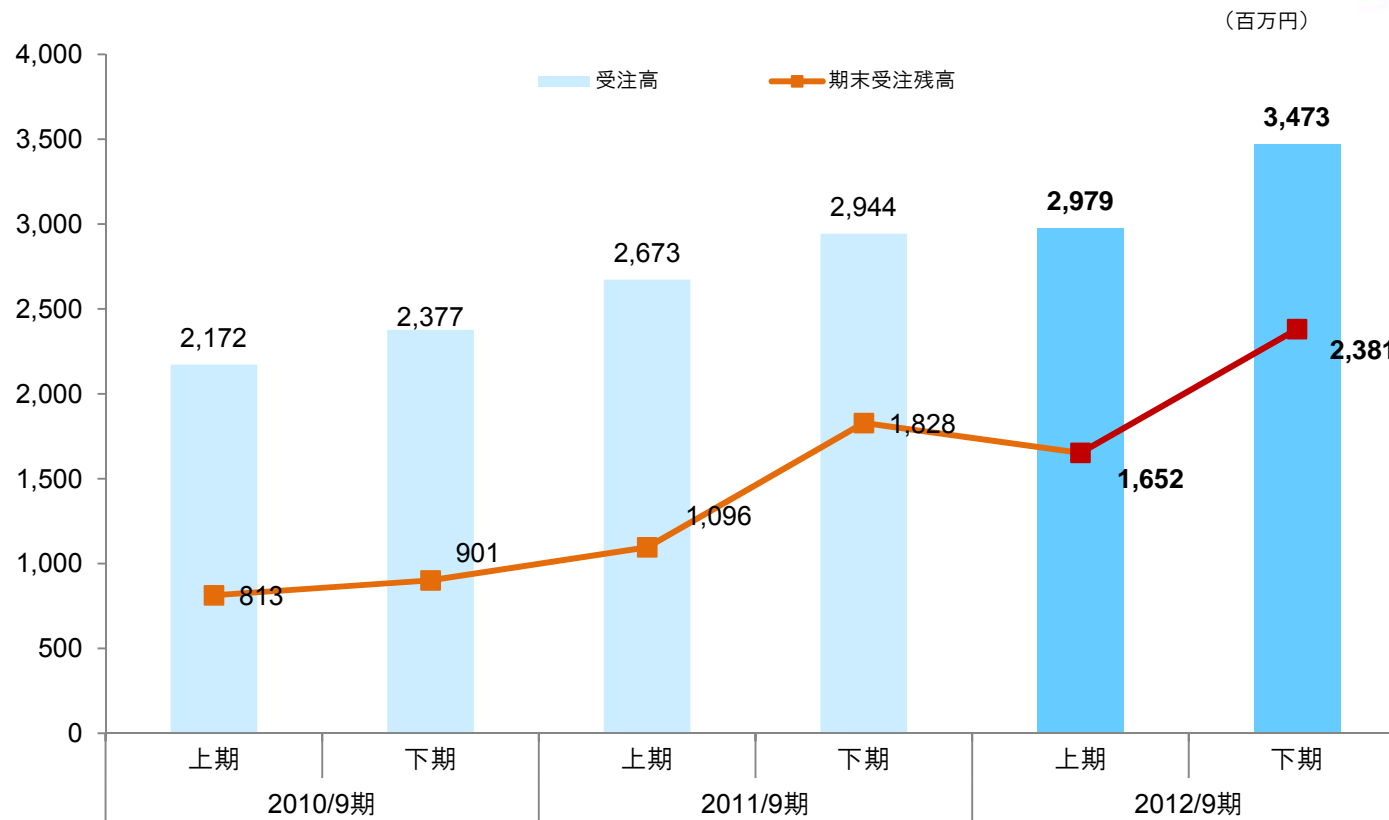
	12/9期 実績	11/9期 実績	増減額	増減率	12/9期 予想	増減率
受注高	6,452	5,617	+834	+14.9%	—	—
売上高	5,900	4,690	+1,209	+25.8%	5,440	+8.5%
営業利益 (営業利益率)	666 (11.3%)	374 (8.0%)	+291	+77.9%	420 (7.7%)	+58.6%
経常利益 (経常利益率)	658 (11.2%)	351 (7.5%)	+306	+87.3%	405 (7.4%)	+62.7%
当期純利益 (当期純利益率)	360 (6.1%)	182 (3.9%)	+177	+97.2%	230 (4.2%)	+56.7%
設備投資額	419	29	390	+1,344.8%	388	+8.0%
減価償却費	191	203	△12	△5.9%	251	△23.9%
研究開発費	249	214	35	+16.4%	237	+5.1%
従業員数(人)※	213	195	18	9.2%	—	—

※△は損失、減少を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前期比1,209百万円増収の5,900百万円となりました。受託試験の過去最高売上等、利益率の高い品目の売上が大幅に伸びたことにより、営業利益は前期比291百万円増益の666百万円、経常利益は前期比306百万円増益の658百万円となりました。当期純利益は前期比177百万円増益の360百万円となりました。

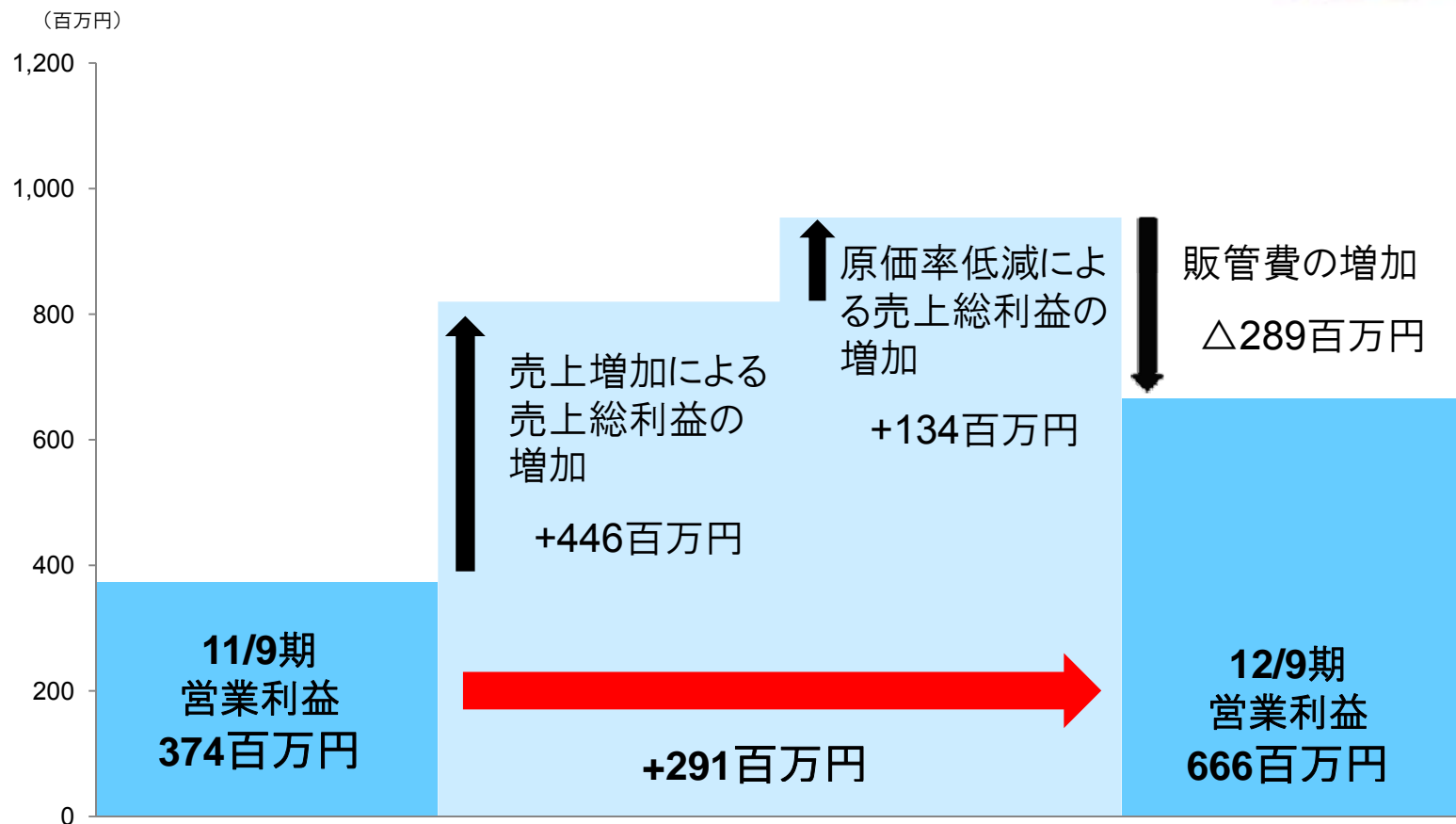
4

■ 受注の状況



自動車関連業界を中心に受注は順調に推移しております。受託試験、DSSの大型案件、エコシェーカーの貢献が特に大きく、年間の受注高につきましては対前期比14.9%増の6,452百万円となりました。

■ 営業利益増加要因(連結)

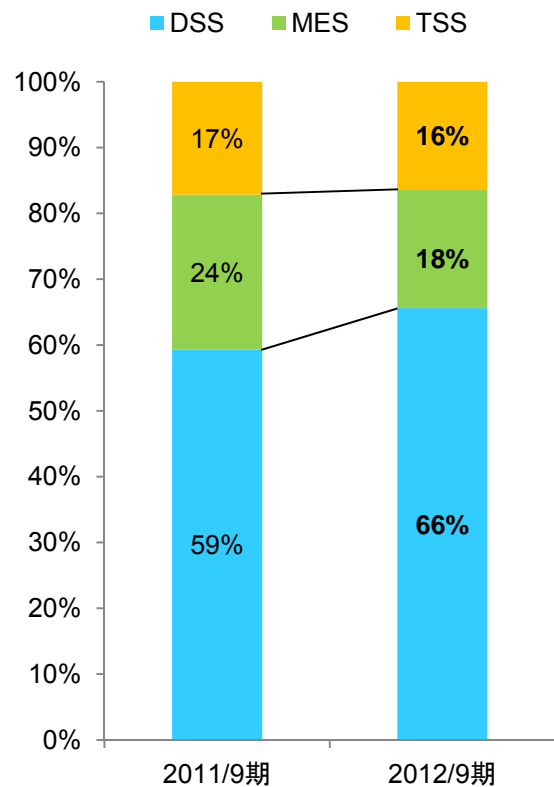


海外進出に向け人材確保による労務費の増加、新製品開発による研究開発費等の経費の増加により販管費が増加しましたが、売上が増加したこと、受託試験等の比較的利益率の良い事業の構成割合が増加したこと等により、全体としては291百万円の増益となりました。

■ 品目別ポートフォリオ

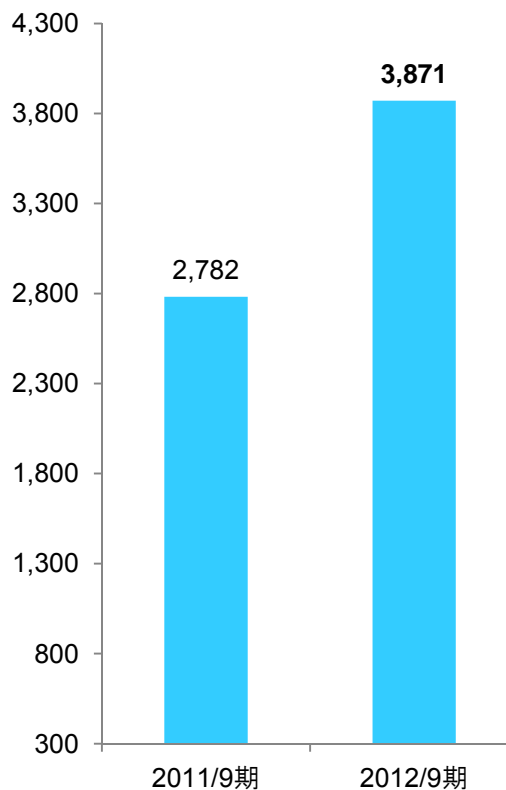


○ 品目別売上構成比



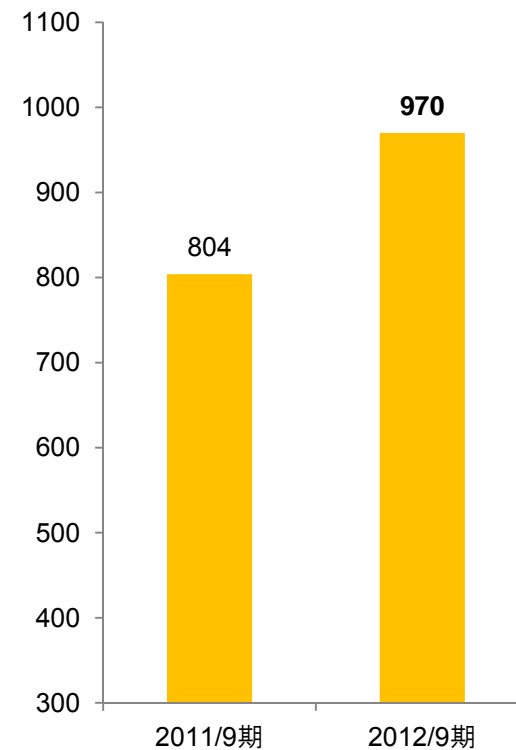
○ DSS

(百万円)



○ TSS

(百万円)



品目別の売上構成比率は前年同期と比較して若干の変化はありましたが、MESは売上に関しては微減であり、DSSの大幅な売上高増加及びTSSの売上が伸びた影響により前期の売上構成比から6ポイント減少いたしました。

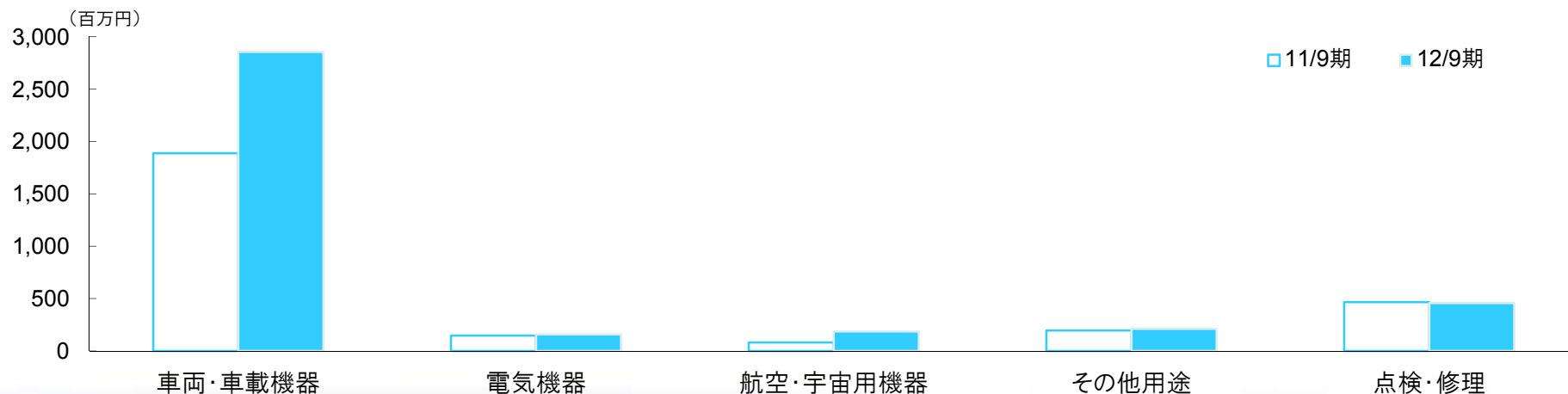
■ DSS ～概況～



(単位:百万円)

	12/9期	11/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	2,856	1,888	+968	+51.3%
電気機器向け	159	147	+12	8.0%
航空・宇宙用機器向け	186	81	+105	+127.6%
その他用途向け	211	196	+15	7.4%
点検・修理	457	467	△ 10	△2.2%
合計	3,871	2,782	+1,088	+39.1%

- 車両・車載機器向け売上は、市況が回復してきた事に加え、リチウムイオン電池等、EV対応用検査装置仕様も増加してきたことから好調に推移し、売上高は前年同期比968百万円(51.3%)の増収となりました。航空・宇宙用機器向けも同様に売上高は前年同期比105百万円(127.6%)の増収となりました。
- タイにて連結子会社であるIMV (THAILAND)CO.,LTD を設立し、ASEAN地域での販売・点検・修理を開始しました。



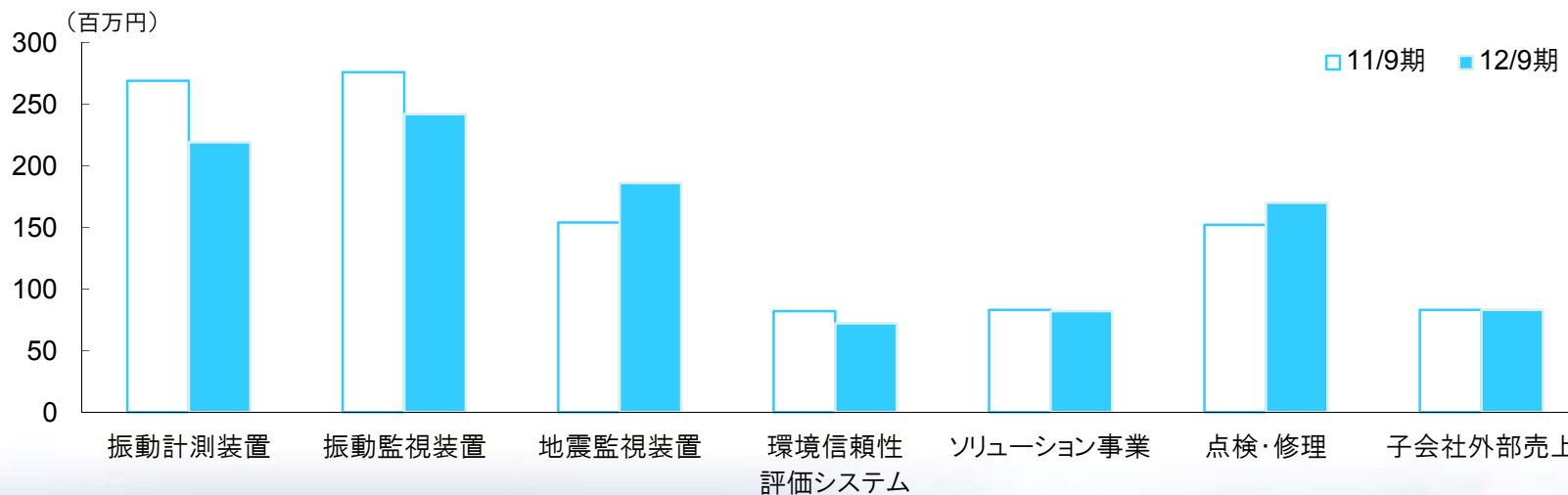
■ MES ～概況～



(単位:百万円)

	12/9期	11/9期	増減額	増減率
振動計測装置	219	269	△ 50	△18.5%
振動監視装置	242	276	△34	△12.5%
地震監視装置	186	154	+31	+20.5%
環境信頼性評価システム	72	82	△ 10	△12.5%
ソリューション事業	82	83	△1	△1.3%
点検・修理	170	152	+18	+12.3%
子会社外部売上	83	83	+0	+0.4%
合計	1,058	1,103	△45	△4.1%

- メジャリングシステムの分野におきましては、新型ポータブル振動計「スマートバイブロ」の販売を開始し、順調に売り上げを伸ばしておりますが、振動計測装置及び振動監視装置については、震災後に増加した火力発電所等への納品が一巡したため、売上高は前年同期比45百万円(4.1%)の減収となりました。



■ TSS ～概況～

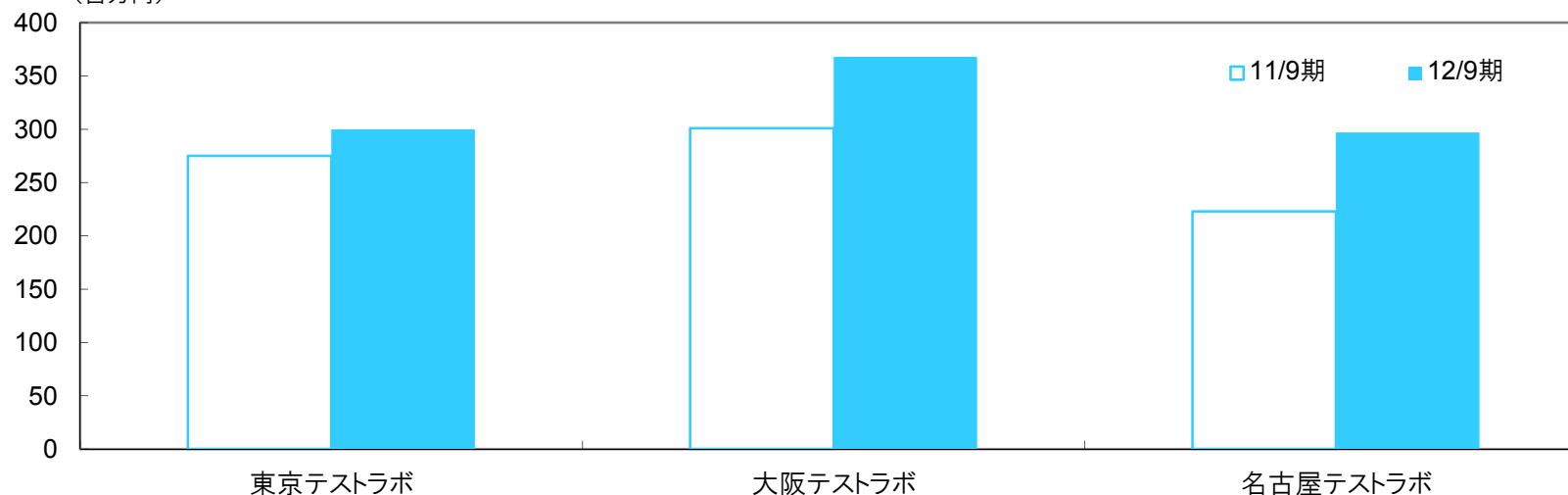


(単位:百万円)

	12/9期	11/9期	増減額	増減率
東京テストラボ	300	275	+24	+8.8%
大阪テストラボ	368	301	+67	+22.4%
名古屋テストラボ	297	223	+73	+32.9%
子会社外部売上	4	3	+0	+21.5%
合計	970	804	+166	+20.7%

- EV関連や、鉄道車両機器の受託試験が好調で、全拠点総売上高は前年同期比166百万円(20.7%)増収となりました。
- 鉄道車両用試験装置を持つ大阪テストラボだけでなく、東京・名古屋でもEV関連の試験が増加したこと等により、テストラボ全体で過去最高の売上高となりました。

(百万円)





今後の取り組み

IMV CORPORATION

copyright©IMV CORPORATION 2012 All right reserved



■ 業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

	13/9期 予想	12/9期 実績	増減額	増減率	概要
売上高	6,000	5,900	+100	+1.7%	
営業利益 (営業利益率)	500 (8.3%)	666 (11.3%)	△166	△24.9%	
経常利益 (経常利益率)	500 (8.3%)	658 (11.2%)	△158	△24.1%	
当期純利益 (当期純利益率)	300 (5.0%)	360 (6.1%)	△60	△16.8%	
設備投資	215	419	△204	△48.7%	
減価償却費	343	191	152	+79.6%	
研究開発費	224	249	△25	△10%	
従業員数(人)※	219	213	+6	—	
1株当たり当期純利益(円)	18.35	22.05	△3.70	—	
1株当たり配当金(円)※	4.00	5.00	△1.00	—	

※ 従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※12/9期の配当金5円(うち、55周年記念配当1円)につきましては、2012年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

国内向けの複合環境試験装置の売上増加及び、海外向けの売上増加を見込み、売上高は6,000百万円と想定しております。利益面では、海外事業への取り組みを加速するための人員増、テスト&ソリューションサービスの増強に伴う減価償却費の増加等によりため費用増加等のため、営業利益は500百万円、経常利益は500百万円及び、当期純利益は300百万円と予想しております。

なお、配当につきましては4円を予定しております。

■ 地域別の取り組み(国内)

売上目標

4,700百万円

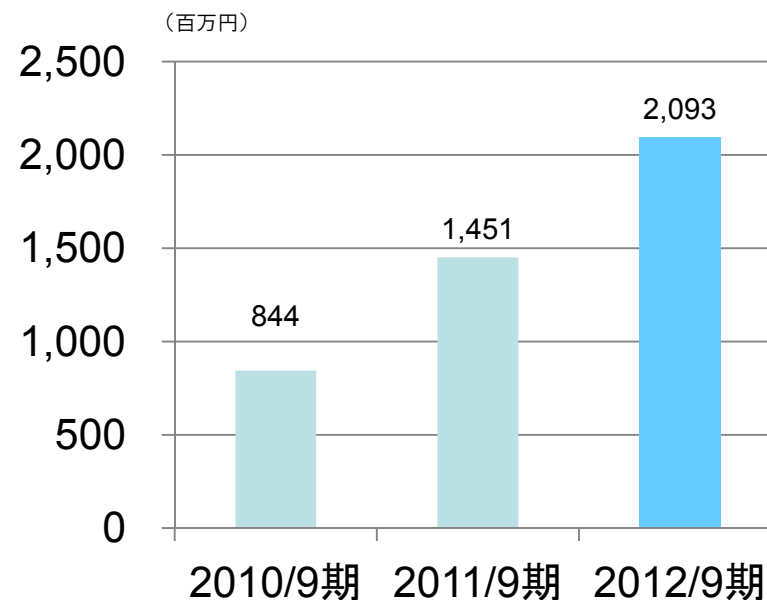
受注残状況・トレンド

自動車業界の受注に加え、当期は、鉄道業界、航空・宇宙業界からの大型受注により、受注残増加

引き合いの状況

高水準に推移(活発)

○国内受注残高の推移



■ 試験の機会が増えている背景

- 1) 新型部品の増加 (EV、EHV等)
- 2) 海外工場からの支援の増加
- 3) 調達ルートが多様化による品質確認の増加



- 1 試験機購入
- 2 テストラボの利用



■ 地域別の取り組み(ASEAN)

IMV(THAILAND)CO.,LTD を拠点に、ASEAN全域の拡販

- 域内売り上げ計画 270百万円
- 自動車産業の開発拠点がタイに増強される事を背景にTSS事業を強化
- 成長著しいインドネシア市場を本格的に開拓

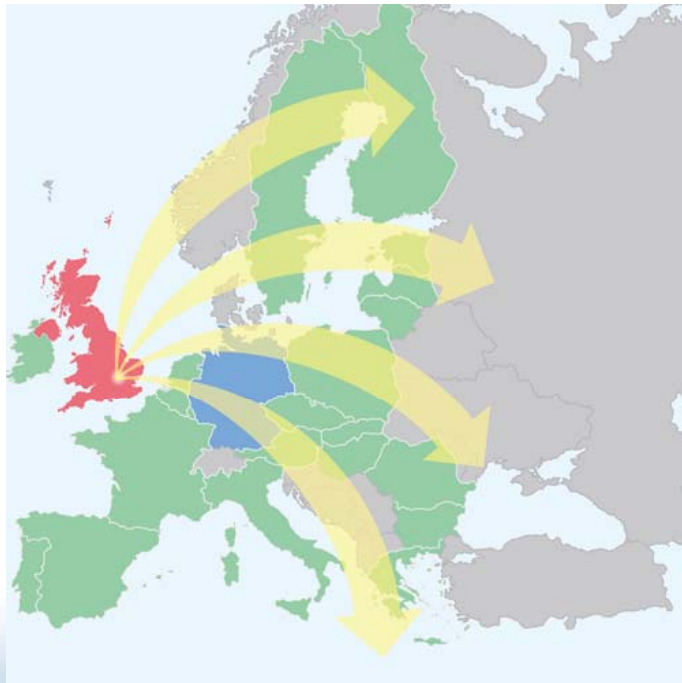


EM2551+水平テーブル

■ 地域別の取り組み（EU）

UKに加えてドイツに販売拠点を設立し、EU全域の拡販

- 域内売上計画 360百万円
- 欧米系自動車関連企業を中心に電機、航空、試験所等、幅広い需要



■コストダウン



現行コストの大幅削減にチャレンジ

- 聖域を作らずサプライチェーン全体で取り組む
- グローバルな視点で取り組む

■ 設備投資

S&R試験 (Squeak And Rattle 試験)設備

・ドイツ Ziegler社 とのコラボレーションで自動車のSqueak and Rattle(きしみ音とガタ音)を測定するシステムを実現し、名古屋テストラボに増設。

・EV車の普及により、車に搭載する全ての製品に対して異音評価の試験需要増を見込む。

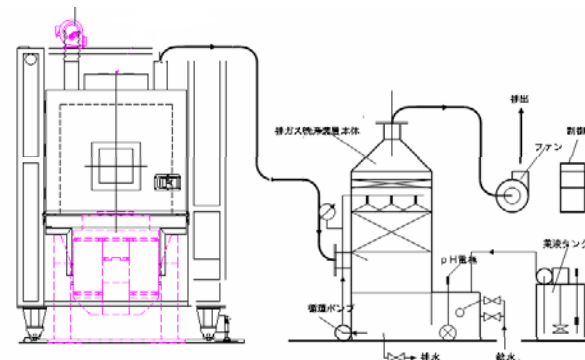


MESの製造工程改善

工程集約により非効率であったレイアウトを改善し、リードタイムの短縮とコストダウンを実現する。

Li-ion電池用発火対策試験装置

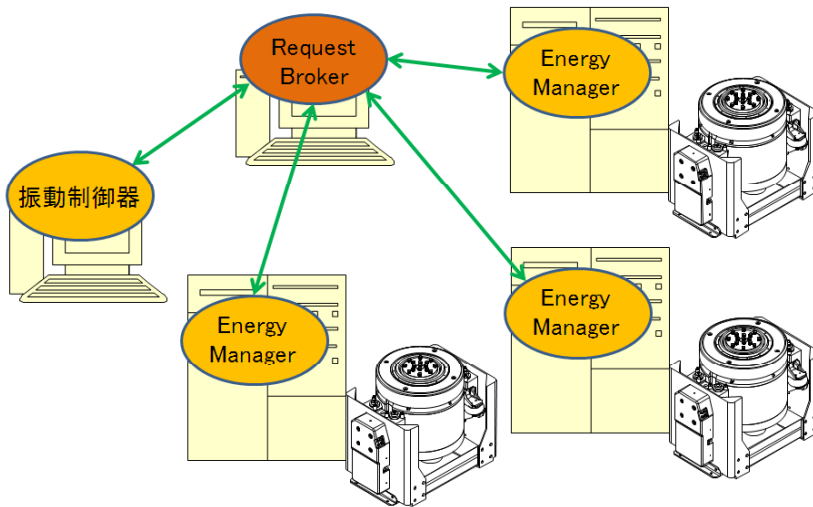
リチウムイオン電池は振動試験中に爆発の危険性があり、対応する試験装置を提供する。
(DSS装置販売のためのデモ機としても活用)



発火対策試験装置イメージ

■ 研究開発

ECOシェーカーの技術の進化



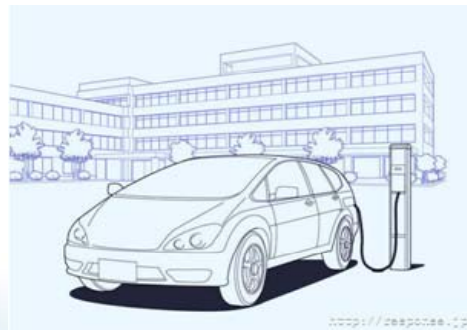
- ・ネットワークを介し、複数のシェーカーをECO化
- ・加振機の劣化診断等の自己監視機能を付加
- ・アフターサービスのスピードアップ

振動制御器のモデルチェンジ

- 海外の制御器専門メーカーへの対抗
- ・ユーザーインターフェースのリニューアル
 - ・ソフトウェアの64bit化
 - ・画像処理等の試験監視機能との連動

Li-ion電池 劣化診断

☆Li-ion電池の劣化兆候検知
 山形大学と共同研究実施中
 2012年11月に開催される電池討論会にて
 劣化診断方法を発表予定

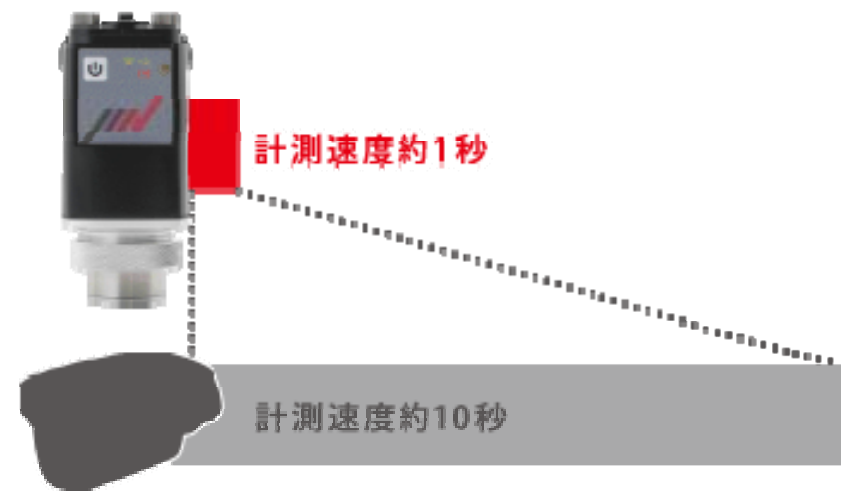


新製品紹介

無線型振動計カードバイブロAir2

発売予定:2012年12月

国内及びOEM販売で 1000台/年 程度の販売を見込む



《4つの特徴》

- Android端末対応 Wi-Fi無線
- 高速レスポンス
- 軽量コンパクト
- 低消費電力(連続6時間)



本日はありがとうございました。

世界NO.1の評価を、
より確固たるものにするため、
今後も世界で戦ってまいります。

一層のご支援、ご鞭撻
よろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長 小嶋 成夫

ありがとうございました



代表取締役会長

小嶋 成夫

代表取締役社長

岡本 二郎

執行役員 経営企画本部長

白星 政和

■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画本部企画部 IR担当 中上

TEL：06-6478-2565 FAX：06-6478-2567

E-MAIL：imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

(ご参考資料)

IMV CORPORATION

copyright©IMV CORPORATION 2012 All right reserved



■ 貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	12/9期末	11/9期末	増減額		12/9期末	11/9期末	増減額
流動資産	4,519	3,735	+784	流動負債	4,172	3,043	+1,129
現金預金	1,117	858	+258	仕入債務	1,370	869	+501
売上債権	2,005	1,670	+334	短期有利子負債	1,974	1,622	+351
棚卸資産	1,200	1039	+160	その他流動負債	827	551	+276
その他流動資産	197	166	+30	固定負債	662	1,071	△409
固定資産	3,017	2,781	+236	長期有利子負債	367	781	△414
有形固定資産	2,874	2,641	+233	その他固定負債	294	289	+5
無形固定資産	22	31	△8	負債合計	4,835	4,114	+720
投資その他資産	120	108	+11	純資産合計	2,702	2,401	+300
資産合計	7,537	6,516	+1,020	負債・純資産合計	7,537	6,516	+1,020

資産の部 : 期末売上の増加に伴い売上債権や棚卸資産が増加した影響により、流動資産が784百万円増加いたしました。

: また固定資産につきましては、236百万円増加いたしました。

負債の部 : 流動負債につきましては、期末生産の増加に伴い仕入債務の増加が1,129百万円ありました。

: 固定負債につきましては、409百万円減少いたしました。

純資産の部 : 純資産は300百万円増加いたしました。主な要因は利益剰余金の増加304百万円であります。

■ キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		12/9期	11/9期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	788	378	+410
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	△411	138	△549
①+②	フリーキャッシュフロー	377	516	△138
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△127	△945	+817
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	1	△0	+1
⑤	現金及び現金同等物の増減額	251	△429	+680
⑥	現金及び現金同等物期首残高	670	1,100	△429
⑦	現金及び現金同等物四半期期末残高	921	670	251

営業CF :税金等調整前当期純利益653百万円、減価償却費191百万円、仕入債務の増加448百万円等の増加要因が、売上債権の増加334百万円、たな卸資産の増加160百万円等の減少要因を上回ったことにより、788百万円の増加となりました。

投資CF :有形固定資産の取得393百万円増加したこと等により、411百万円の減少となりました。

財務CF :長期借入金の返済による支出504百万円等の減少要因により、127百万円の減少となりました。

■ 会社概要(2012年9月期連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)

証券コード : 7760 (大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)/精密機器)

設 立 : 1957年4月17日

事業概要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売
及びテスト&ソリューションサービスの提供

代 表 者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫
代表取締役社長 岡本 二郎

売 上 高 : 5,900百万円

経 常 利 益 : 658百万円

資 本 金 : 464百万円

従 業 員 数 : 213人 (42名の期中平均臨時従業員含む)

本 社 所 在 地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10
(本社/技術本部/東京営業所/大阪営業所/名古屋営業所/東京テストラボ/
大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

■ 会社沿革



1957年	4月	株式会社国際機械振動研究所を設立
1974年	10月	会社更生法を大阪地裁へ申請 小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
1985年	7月	残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
1994年	9月	日東精機(株)を100%子会社化
1998年	4月	国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
2005年	5月	本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
2005年	6月	大阪テストラボ開設
2005年	7月	ジャスダックに上場
2007年	2月	大阪にショールーム開設
2007年	4月	会社設立50周年
2007年	9月	名古屋テストラボ開設
2009年	3月	大阪テストラボに鉄道車両機器向け新試験棟開設
2009年	12月	(株)データ・テクノを100%子会社化
2010年	2月	ブリュエル・ケアー社(B&K社)と業務提携
2010年	12月	東京営業所を浜松町へ移転
2011年	10月	英国にIMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTRE を開設
2011年	11月	タイにIMV(THAILAND) CO.,LTD.(子会社) を開設



SECURE THE FUTURE

～IMVが見守る未来～

FIRST Choice for our Partners

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| Future | 安全を見つめて未来の社会に貢献します |
| Integrity | 誠実で開かれたパートナーシップを大切にします |
| Reliability | 製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます |
| Strength | 振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します |
| Technology | 顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します |

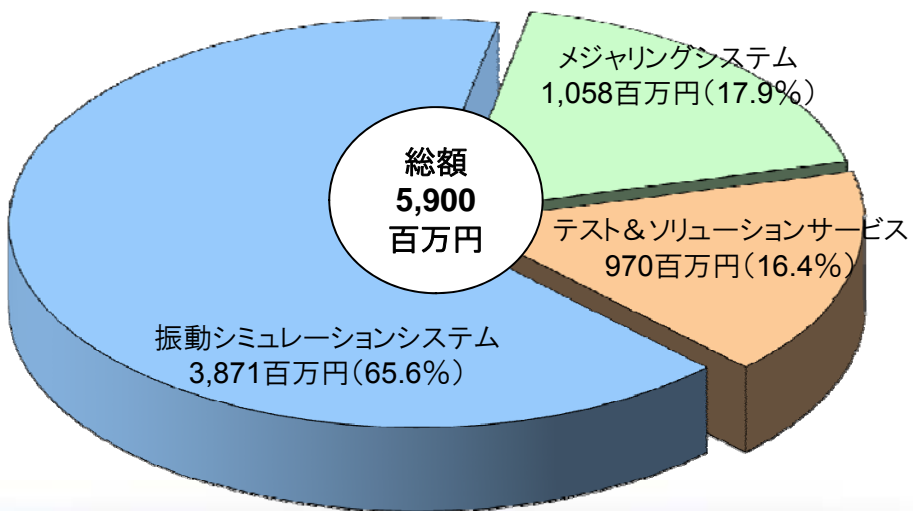
■ 国内トップシェアを実現する3つの事業



振動を**再現**する
振動シミュレーションシステム



振動を**計測**する
メジャリングシステム



(2012年9月期 連結売上高)

振動問題を**解決**する
テスト&ソリューションサービス

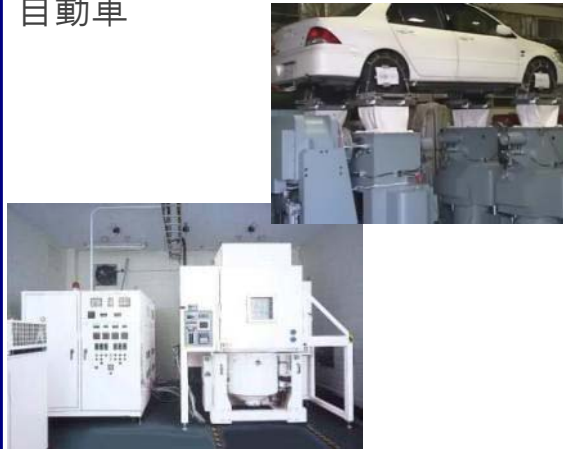


■ 振動シミュレーションシステムの用途



～あらゆるシーンで使用されています～

自動車



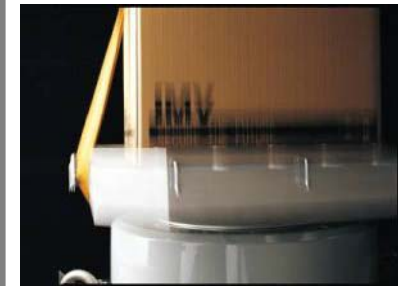
航空宇宙



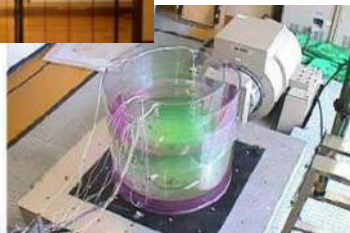
鉄道



輸送



構築物



人体



電気機器



建設機器